

令和3年度 長崎市自然環境調査報告書：水生生物

長崎市自然環境調査委員 深川 元太郎

今年(2021年1月～12月)は、長崎市内の砂浜や砂礫浜で、打上貝を中心とした水生動物類や海浜性の種に主眼をおいた昆虫類の調査を行いました。この調査結果については、別途取りまとめて、報告書として長崎市に提出する予定です。なお、希少な種の保護の観点から、提出予定の報告書については非公開となります。

◎調査地点と時期・方法

調査は、表1の月日に、図1に示した赤丸の21地点で行いました。各地点の調査回数は、工事による改変の為1回しか実施しなかった手熊海岸、無人島調査で実施した野島の1回を除き、3～4回実施しています。調査方法は、打上貝や海浜性の昆虫類を目視、直接採集(石おこしなど)、砂を篩っての採集(シフティング)などを行っています。また、その際確認された他の動物もあわせて記録しています。調査地点の画像は図5のとおりです。

表1. 調査月日と採集方法

No.	調査年月日	調査者	場所	陸上昆虫類				水生動物	
				陸上 ルッキング	スーピング	シフティング	スプレイング	水辺 ルッキング	笊網
1	2021.1.11	FG	飯香ノ浦、千々、川原	○				○	○
2	2021.1.16	FG	出津	○				○	
3	2021.1.17	FG	神浦	○				○	
4	2021.1.31	FG	見崎	○				○	
5	2021.2.6	FG	岳路、鯉浜、鯉浜南	○				○	
6	2021.2.11	FG	柿泊	○		○		○	
7	2021.2.14	FG	宮摺、脇岬	○		○		○	
8	2021.2.21	FG	又兵衛、琴海NT	○				○	
9	2021.2.28	FG	高浜、大籠、竹崎	○		○		○	
10	2021.3.21	FG	神浦、出津	○		○		○	
11	2021.3.27	FG	脇岬、岳路、鯉浜南	○		○		○	
12	2021.4.3	FG	飯香ノ浦、宮摺、千々、川原、鯉浜	○		○		○	
13	2021.5.2	FG	手熊、大籠、竹崎	○		○		○	
14	2021.5.3	FG	又兵衛	○				○	
15	2021.5.8	FG	見崎	○		○		○	
16	2021.5.30	FG	琴海NT	○				○	
17	2021.6.5	FG、OY	鯉浜南、黒浜、大籠	○		○		○	
18	2021.6.20	FG	出津、神浦	○				○	
19	2021.7.4	FG	小江	○	○			○	
20	2021.7.11	FG	岳路	○	○			○	
21	2021.7.18	FG	飯香浦、千々	○	○			○	
22	2021.7.22	FG	見崎	○	○			○	
23	2021.7.30	FG	又兵衛	○	○				
24	2021.8.7	FG	神浦	○	○				
25	2021.8.15	FG	脇岬、高浜、鯉浜南、鯉浜	○				○	
26	2021.8.22	FG	竹崎、大籠、柿泊	○	○			○	
27	2021.9.4	FG	野島	○		○	○	○	
28	2021.9.20	FG	宮摺、川原、岳路	○				○	
29	2021.9.25	FG	小江、見崎	○	○			○	
30	2021.10.23	FG	黒浜					○	
31	2021.11.3	FG	柿泊、小江					○	○
32	2021.11.14	FG	琴海NT	○				○	
33	2021.12.4	FG	黒浜					○	

<調査者略記> FG: 深川元太郎、OY: 小原良典

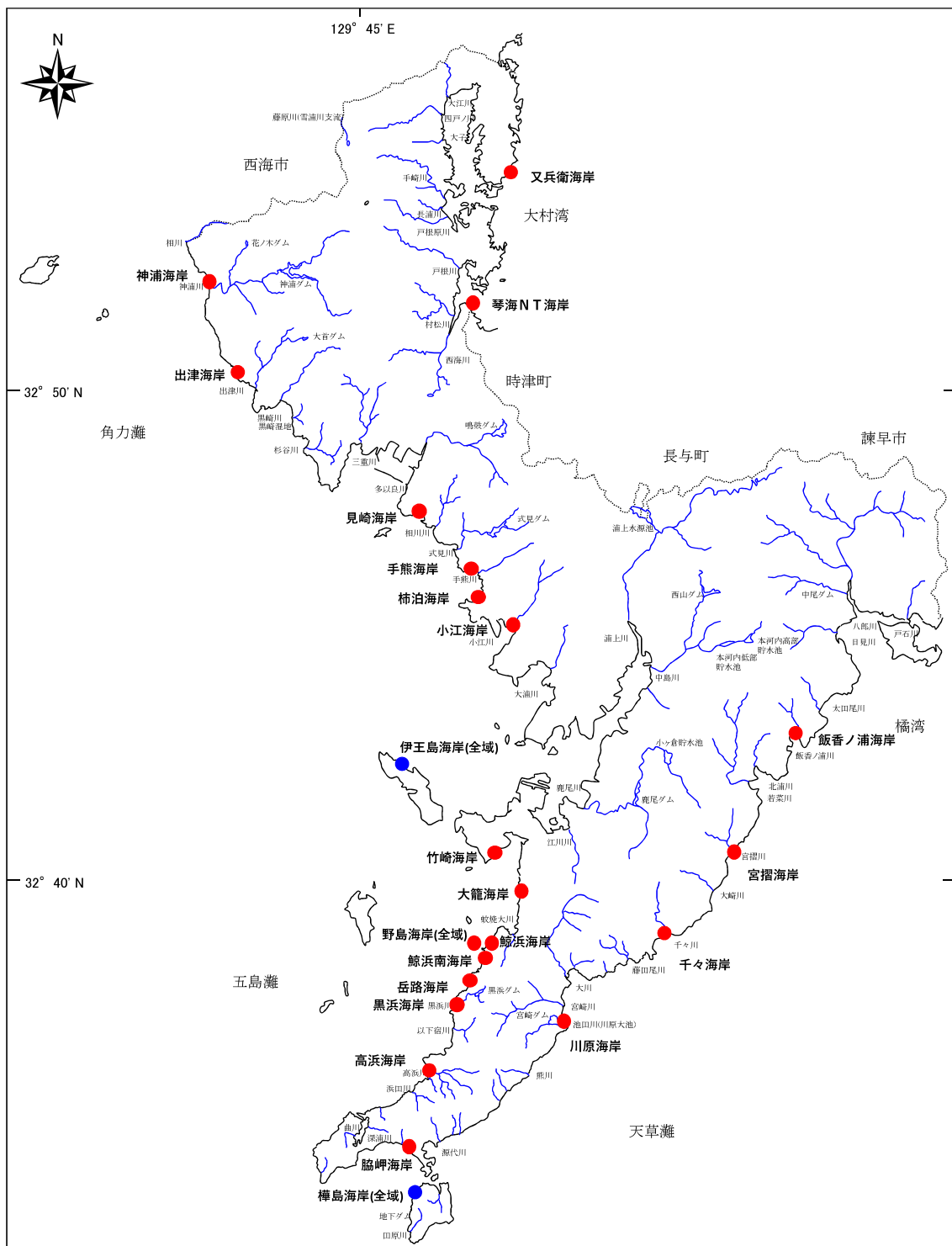


図 1. 調査地点（赤丸：今年の採集地点、青丸：以前の長崎市自然環境調査の調査地点）

確認種は、種までの査定ができなかったものも多くありますが、既往知見や未発表資料も含めて全地点で 1,761 種となっています。

(貝類)

貝類をみると、最も多く種類が確認された場所は、図 2 のとおり大籠海岸の 209 種であり、次いで見崎海岸(196 種)、高浜海岸(195 種)、黒浜海岸(194 種)となっています。これらの地点はいずれも角力灘(五島灘)に面した場所です。海岸によって礫質の場所もあり、貝

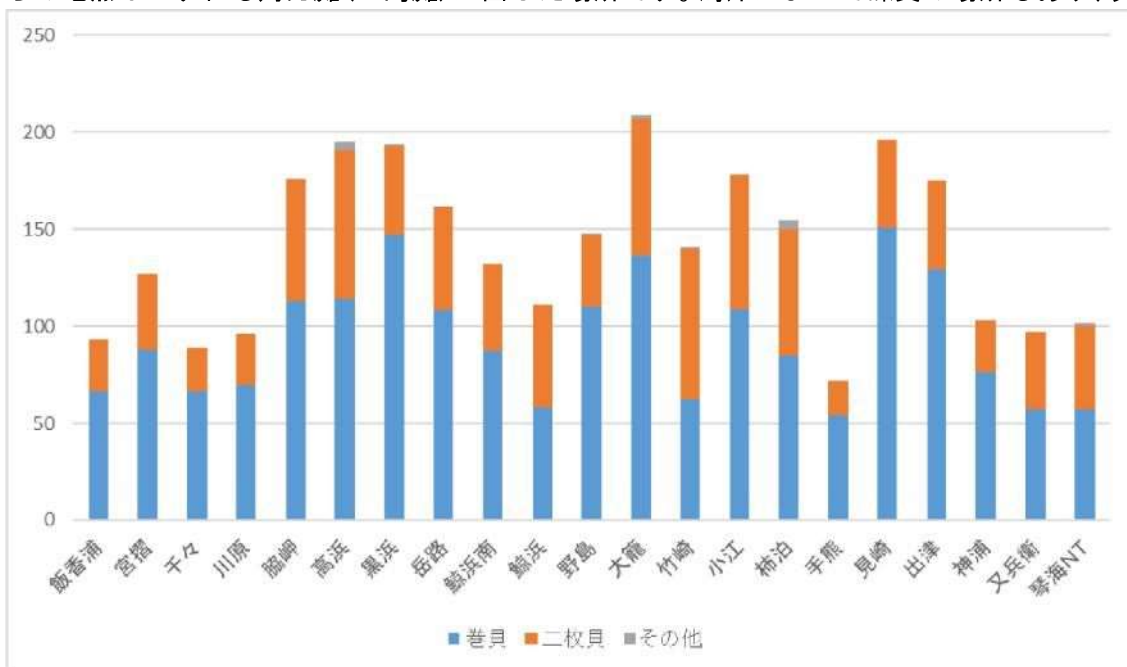


図 2. 貝類の確認種数

が打上げられても微小な種を中心に礫間に入り込むため確認しづらかったり、波浪の影響や地形・人工構造物の関係で打上げられにくい海岸もあることから、一概に周辺海域の貝類相を反映しているとは言えませんが、外海に面した海岸で種類数が多い傾向のようです。また、人工的に造成された砂浜海岸では、周辺海域に生息する種以外に、搬入された砂に混入していたものが含まれているものがあるようです。今後の調査次第ではすべての地点で新たに多くの種が確認されるものと考えています。

主な確認種をあげてみると、マツバガイ、ヨメガカサ、ウノアシ、イシダタミ、ウラウスガイ、スガイ、クマノコガイ、クサイロクマノコ、キクスズメ、マガキガイ、アワブネ、メダカラ、イボニシ、キクノハナ、エガイ、クジャクガイ、ヒバリガイモドキ、ケガキなどです。今回、長崎市をはじめ、環境省や長崎県などでレッドリストに掲載されている種も確認されており、長崎市 47 種、長崎県 66 種および環境省 84 種となっています。一例として、以前は正月のお節料理によく使われていたバイ貝の打上確認地点を図 3 に示しています。本種は多くの地点で確認されますが、古い貝殻もあり、打上られた海岸周辺において現在も生息しているかどうかは不

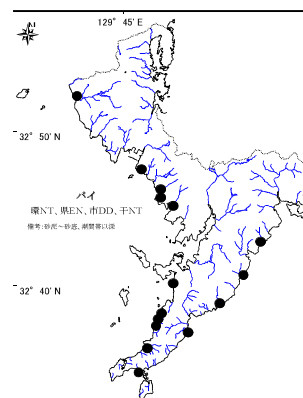


図3. バイの確認地点

明ですが、大籠海岸においては見つかる数も多く、打上げられて間もない貝殻も確認されていることから、潮下帯には少なからず生息しているのではと考えています。最近のスーパー等で販売されているバイ貝は、外国産の別種であることが多くなっていますが、昨年の正月に最寄りのスーパーで長崎県産と表記されたバイ貝が販売されていたことから、県内でも漁獲対象となっている地域が現在もあるようです。一方で外来種も確認されており、中でもシマメノウフネガイは、数は少ないものの、角力灘や橘湾の広い範囲で確認されている状況となっています。

確認種の一部の画像を図6にあげておきます。

(海浜性昆虫類)

海浜性昆虫類といっても種ごとの生態・生活様式は様々ですので、今回は調査で確認したもののうち、既往の文献等から比較的海岸部を生活史の中心に据えていると考えられる種の一部について記述します。

カメムシ類では、ウミミズカメムシ(未発表資料)、ウミアメンボ、シロウミアメンボ、シオアメンボ、モモブトトビイロサシガメ、ヒメマダラナガカメムシ、ヒメオオメナガカメムシなどが確認できています。このうちウミアメンボは、市内で砂浜に隣接する岩礁部の1ヵ所のみで確認されています。今回、新たな生息地を探しましたが、残念ながら既知の場所以外では確認できていません。

甲虫類では、シロヘリハンミョウ、ヒョウタンゴミムシ、ハマベエンマムシ、ヒラズイソアリヅカムシ、ヤマトケシマグソコガネ、ニセマグソコガネ、ハマベオオヒメサビキコリ、スナサビキコリ、ハマヒョウタンゴミムシダマシ、オオスナゴミムシダマシ、トビイロヒョウタンゾウムシなど様々な種が確認されています。シロヘリハンミョウは、1地点のみで確認されました。長崎市内における過去の記録を見つけることができず、市内初記録の可能性があります。目視確認した数も10個体未満と少なく、絶滅に瀕した状態である可能性があります。同様に、ヒラズイソアリヅカムシも長崎県内の過去の記録を確認することができず、県内初記録である可能性があります。今回1ヵ所で1個体のみでしたが、2mmにも満たない微小な種であることから、今後市内でも新たな生息地が見つかる可能性が残されています。一方、ハマベオオヒメサビキコリは、市内では生息地が局所的と考えていましたが、図4のように、市内の広い範囲の砂浜海岸に生息していることが分かりました。本種は後翅が退化して飛べない昆虫であるため、市内でどのように生息地を広げてきたのか気になるところです。

その他の昆虫では、高浜海岸の砂上にあった石の下から、アワテコヌカアリのコロニーが2つ確認されています。確認したのは5月初旬で、個体数も非常に多かったことから、定

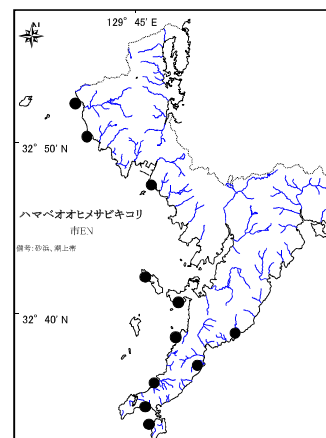


図4. ハマベオオヒメサビキコリ確認地点

着していることはほぼ間違いないようです。本種は、原産地がはっきりしない外来種で、1990 年代に南九州で、2014 年に福岡県から報告されています。家屋害虫にもなっているようで、県内の今後の動向が気になるところです。

確認種の一部の画像を図 7 にあげておきます。またその他の動物の画像を図 8 にあげておきます。



図 5（1）. 調査地点（過去の調査地点含む）



岳路町 (岳路海岸)



黒浜町 (黒浜海岸)



高浜町 (高浜海岸)



脇岬町 (脇岬海岸)



野母崎樺島町 (樺島海岸)



宮崎町 (川原海岸)



千々町 (千々海岸)



宮摺町 (宮摺海岸)



飯香浦町 (飯香浦海岸)



西海町 (琴海 N T 海岸)



尾戸町 (又兵衛海岸/塩垂海岸)

図 5 (2). 調査地点 (過去の調査地点含む)



カニモリガイ



シチクガイ



パカガイ



イシマキガイ



ハナビラダカラ



ヨフバイ



ホウオウガイ



チドリマスオ



ナミノコガイ



ベニガイ



シドロ



シマメノウフネガイ



ハボウキガイ



ケマンガイ



シラギク

図 6 (1). 貝類



ヒロクチカノコ(近似種)



ツタノハ



オミナエシダカラ



ウスヒメアワビ



コモンダカラ



クチグロキヌタ



ムシロガイ



カヤノミカニモリ



バイ



ビワガイ



ハルシャガイ



シオヤガイ



トウマキ



カセンチドリ



クリイロカメガイ

図 6 (2). 貝類



サトアリツカコオロギ（？）



ハマベオオヒメサビキコリ



クロツツマガソコガネ



オチバアナアキゾウムシ



ヒラズイソアリツカムシ



ホオズキカメムシ



ヒメオオメナガカメムシ



コカスリウスバカゲロウ



オオスナゴミムシダマシ



ヒョウタンゴミムシ



オオマルチビゴミムシダマシ



サツマゴキブリ



ニセマガソコガネ



ハマヒョウタンゴミムシダマシ



ヤマトケシマガソコガネ

図 7 (1). 昆虫類



アワテコヌカアリ



キイロミヤマカミキリ



ヒメマルカツオブシムシ



ヤエヤマニセツツマグソコガネ



スナサビキコリ



クロツバメシジミ



ウリハムシ



キアゲハ(幼虫)



オオキンカメモシ(死体)



ヒメホソハマベゴミムシダマシ



シロヘリハンミョウ



エリザハンミョウ



トビイロヒョウタンゾウムシ



ウミアメンボ



アカギカメモシ(死体)

図7(2). 昆虫類



タイワンヒライソモドキ



シマイサキ



アカイソガニ



ハマダンゴムシ



アカミミガメ



アカウミガメ? (死体)



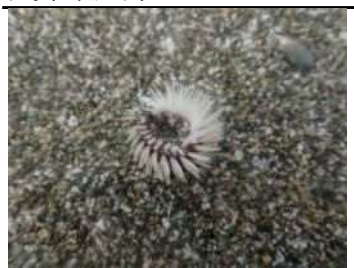
アオダイショウ



ヒライソガニ



Hippa属(スナホリガニの一種)死体



ウミケムシ



ツノメガニ



ナンヨウスナガニ



ヨツカドヒラフジツボ(死殻)



ゴマフェダイ



ゴンズイ

図 8. その他の動物